

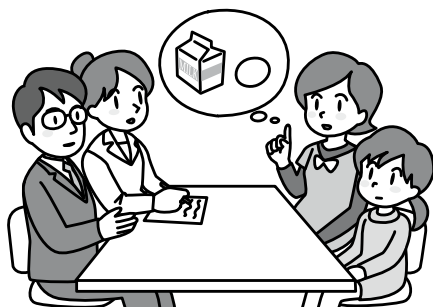
悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト／清水直子



第39回

食物アレルギー

学校給食で大変に残念な事故

徹底した検証で

課題を明らかにする必要がある

読者の皆さんも既に存知のことと思いますが、大変に残念な事故が起きてしまいました。昨年12月20日、東京・調布市の小学校で、給食が原因と思われる食物アレルギーの重篤な症状、アナフィラキシーショックで5年生の女の子が亡くなりました。ご本人、ご家族の無念を思うと悔やんでも悔やみきれない思いでいっぱい입니다。給食による食物アレルギーの死亡例は、1988年に札幌で起きて以来報告されておらず、今回の事故は学校関係者や、何より食物アレルギーの子、お母さんたちに大きな不安をもたらしています。

事故についてはしっかりとした検証

証が必要です。調布市の検証委員会はもちろん、文部科学省もこの事故を重大に受け止め検証作業を、また小児アレルギーの指導的な立場にいる先生方もチームを立ち上げて検証を行なうと聞いています。課題は何だったのかを明らかにし今後に生かすことしか、亡くなったお子さんの無念にこたえる道はないと思います。その中で、この事故を真剣に受け止め、既にこれまでの取り組みの見直しを始めている地域があることはありがたく思います。大切なのは「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(監修:文部科学省)、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省)に基づき着実な取り組みです。何より重篤な食物アレルギーの子どもの

いる学校や保育所では、教職員全員がその子について理解しているという情報の共有と、しっかりと取り組んでいても事故は起きることを前提にした、研修の実施などの備えが重要だと思います。

適切な医療のもとで

食べられるように

適切な診断に基づく必要最小限の食物除去の大切さも改めて感じます。残念ながら食物アレルギーについては血液検査の結果だけで診断され、必要のない多品目の除去を強いられている方にたくさん出会います。適切な医療のもとで不必要な除去をなくし、少しでも早く食べられるようになっていくことで、事故にあう危険性も減らせると思います。



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に「食物アレルギーの手びき 改訂第2版」(南江堂刊)。